

獨活
名稱

久シキ者ハ其藤最大ニシテ木ノ如ク或ハ直立ス故ニキヅタト呼ブ葉形變ジテ一尖ニシテ狭クナリ初ノ葉トハ形甚異ナリ夏月葉間ニ花ヲ生ズ小ニシテ白シ數十簇生ス後圓子ヲ結ブ大サ二分許熟シテ黑色中ニ紫汁アリ

〔武江産物志〕藥草隨地有之類 常春藤ふゆつた

〔本草和名〕獨活陶景注云不爲一名羌活一名羌青一名護羌使者一名胡王使者一名獨搖草陶景注云此草得風不搖無風自搖一名薇薺出兼一名口花使者出雜要訣和名宇止一名都知多良

〔倭名類聚抄〕獨活 本草云獨活一名獨搖草和名宇止一名豆知多良陶隱居注云無風自搖故以名之

〔類聚名義抄〕獨搖草ハツチタラ一云

〔伊呂波字類抄〕獨活ツチタラツチタラウツド

〔下學集〕烏頭布ウツド〔同草木〕羌活ウツド獨活ウツド故云爾末云羌活蘆頭ウツド獨活也

〔易林本節用集〕獨活ウツド

〔物類稱呼〕獨活ウツド 西國にてしかといふ西國にては土中に有を獨活ウツドといひ二三寸地上に生じたるをうどといふ尺以上になりたる物をしかと呼阿部氏云松前千砂野の濱より眞の獨活を出す土人これをさいきと云京嵐山にも有ししうど又いぬうどといふ

〔倭訓栞〕新撰字鏡倭名鈔に獨活をよめりうどめは其芽也西國に土中にあるを獨活と呼也地上に生じたるをうどといひ尺以上のものをしかと呼り古へ醍醐の産を賞せりされど庭訓に烏頭布と書たるをもて黒き和布也ともいへり玄うどは羌活也うどもどきともいふをはりうど枕草紙に見ゆ今も名産とせり

〔本朝食鑑〕獨活訓土和名豆知多良

集解獨活冬采根藏甕中之土或塗土藏于桶中其根作塊上尖下蹲而有脂冬至春初根之尖處有紫